

Go-Ahead

2

10 年研 第 2 回

授業づくりのために アンケートの感想から

学習の大切なことについて、今一度見直すことができました。子どもたちの学習意欲を育てていけるような授業づくりを目指すことや、声かけをしていきたいと思います。動機付けについても、“なるほど”“そうか”と何度もうなずいてしまいました。キーワードをたくさん教えて頂くことで、明確に気をつけていくことがわかり、大変有意義な研修でした。ありがとうございました。

10 年経験者研修第 2 回は大阪教育大学教授、新坊昌弘先生をお招きして、『授業づくりのために一学力の現状と課題について』というテーマでご講義いただきました。全国学力テストのデータ分析や秋田の例なども挙げて頂き、とても分かりやすくお話をいただいたのですが、感想に「聞いている私も最後はあつくなりました」とあがるほど、何より子どもたちのために何とかしなければという先生の熱いがひしひしと伝わってきました。新坊先生は大阪府教育委員会において、『大阪の授業 STANDARD』(※)を作られた方でもあります。

(※大阪府教育センターのホームページからダウンロードできます。)

今日は、ありがとうございました。学校としてのあり方を学べたように思いました。

箕面では、秋田への視察や交流研修がとて増え、そのことが、正直負担に感じていました。しかし、今日の新坊先生のお話を伺っているうちに、気持ちに変化が起きました。秋田の手法ばかりに目がいついたように感じるから負担だったのかもしれません。「秋田の心を学ぶべきだ」という言葉が 1 番心に残りました。子どもを何よりも大切にできる教師集団としての学校をめざしたいと思いました。

整理整頓された教室、小中学校にわたって統一された授業形態、コメントの添えられた掲示物など、非常に組織だった秋田県での取り組みがよく取り上げられますが、それは決して型の押し付けではなく、荒れが深刻だった時期に、子どもたちのために何とかなくてはという“心”が創り出したものであり、だからこそ、その取り組みが持続していると理解できました。そんな先生が創り出した『大阪の授業 STANDARD』も“型”をまねるだけでなく、“心”を学ばなくてはならないのではないかと感じました。

感情が学びにとっても大きな影響を与えるというのは本当にその通りだなと思いました。学習に目的意識を感じ、学んだことが力になった達成感があり、学習が楽しいと感じられていれば、自然と能動的な学びが生まれ、学力もそれにもなって上がっていくと思いました。意欲は子どもの内側から作る授業規律という言葉がすごく考えさせられました。秋田の学校の指導の一貫性、あちこちにあふれる学習スキルの掲示、子どもの学びをきちんと認める評価する様子、などを見て驚きました。このようなことが大切なことはよく分かっていたことなのですが、全く一貫性のないものだったなと思いました。学校全体として、どのように子どもに向き合っていくのかしっかり考える必要があると思いました。

感情や心のあり方が学びに大きな影響を与える…その通りですね。それはプラスにもマイナスにもとても大きな要素として存在しています。掲示物にもコメントが入り子どものがんばりをしっかりと評価し、学びに没頭できる安心感のある教室や、教材や仲間、自分と対話し、心揺さぶられる授業をどう実現するのか。

「子どもを伸ばしたい」「子どもの学力を育みたい」そんな全教師共通の思いをどう具体的に行動に移せばよいか…、その答えのヒントをいただいた気がします。「個人の力では学校は変わらない」という言葉を胸に、自分の気持ちは子どもに置いたまま「組織」の目線をもち、自分は学校で何ができるかを問い続けたいと思います。

学力の問題一つとったとしても、指導力のある先生が個人で頑張るだけでは太刀打ちができなくなってきています。子どもたちのためにも「組織」として気持ちのそろった教職員集団づくりが必要になっていきます。

最後に、

たしかにエンジン、気持ちのそろった教職員集団、難しいですね。それが自分の役目だと思っています。

頼もしい一言、共にがんばりましょう。